

東京グレートサンタランの収益の一部は、  
NPO 法人フリー・ザ・チルドレンを通じて、  
ケニアのマサイ族など先住民族の貧困家庭の子どもへの  
医療支援に使われます。

### ▼ケニアの子どもにメッセージを送ろう！

東京グレートサンタランの当日、会場では「ケニアの子どもたちに向けたメッセージをばんそうこうに書いて送ろう！」というプロジェクトをブースにて実施します。

ぜひ、みなさん、ブースにてメッセージを書きに来てくださいね！

※メッセージは英語でお願いします。



## ▼フリー・ザ・チルドレンのケニア医療支援について



NPO 法人フリー・ザ・チルドレンは、2002年からケニア南西部の貧困地域で暮らすマサイ族などの先住民族の人々が自立できるよう教育、水、保健医療、農業、収入向上の5つの分野での国際協力活動を行っています。そのなかの「子どもへの保健医療」の活動に、東京グレートサンタランを通じて集まった資金を使わせていただきますので、ここで事業についてご紹介します。

ケニアでは、妊産婦と乳幼児の死亡率の高さが社会課題のひとつとなっています。妊婦の38人にひとりがある程度健康リスクに直面しており、200人にひとり以上の子どもが5歳未満で命を落としていると報告されています。その理由のひとつに、農村地域などの地方では保健医療システムや水道などが整備されていないため、人々が適切な医療サービスやきれいな水にアクセスできないということがあげられます。



(写真上：家の近くに井戸などがなく、池の水20リットルを15分かけて運ぶ女性たち)

子どもやお母さんの命を救うために、フリー・ザ・チルドレンは病院や診療所、巡回診療の運営を行い、特に次の3つのことに取り組んでいます。

1. 医療機関にアクセスできない僻地に住む人々を対象にした、移動診療車での巡回診療の実施



2. 妊産婦や乳幼児、子どもを対象にした検診、治療や予防医療の提供



3. お母さんや子どもを対象にした健康衛生セミナーの実施

東京グレートサンタランを通じて集まったご支援によって、ケニア南西部に暮らすマサイ族などの先住民族の乳幼児や子どもを対象にした検診、治療、ワクチン投与などを行うことができます。

## ▼マサイ族のママたちの支援につながるエシカルグッズ

### 販売します！

東京グレートサンタランでは、当日様々なブースが設置されます。フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、支援先のマサイ族の伝統工芸であるビーズを使ったママたちによる手作りアクセサリーや、キーホルダー、名刺入れなどオシャレなフェアトレード商品などを販売する予定です！



ご購入いただくと、マサイ族の自立支援につながります。お買い物で国際協力ができる素敵な機会をお見逃しなく！ぜひ、ブースに遊びに来てください。



## ▼応援する子どもたちのことを知ろう！

～ケニア共和国～



## 太古の文化と共に生きる、大自然広がる国、ケニア

ケニアはインド洋に面した東アフリカの国で、雄大な自然と多くの野生動物が生息しています。ケニアは赤道付近に位置していますが、首都のナイロビや、フリー・ザ・チルドレンが支援事業を行っているマサイマラ地区は標高が高いため、一年中さほど暑くなくさわやかで過ごしやすい気候が特徴です。

アジアとアフリカの交易路として栄えた歴史から、多くの民族からなる多様な文化が生まれました。いまでも 42 の民族が暮らし、60 以上の言語があるとされています。公用語はスワヒリ語と英語です。

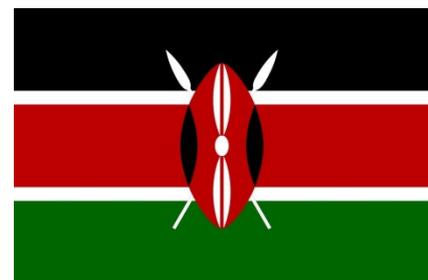


国土は、日本の約 1.5 倍ありますが、その半分以上は乾燥した半砂漠地帯です。降雨が少ない年は水不足に陥り、干ばつで国民は飢餓に苦しめられてきた過去があります。

人口は 2017 年時点で 4,970 万人と報告されています。近年、経済成長がみられるケニアですが、貧富の格差は広がっており、1 日 1.9 ドル（約 200 円）未満で生活する「極度の貧困層」は 36% いるとされています。

### ケニアの国旗について

独立に伴い 1963 年 12 月 12 日につくられました。黒はケニア人の肌の色への誇りを表し、赤は独立のために流された血、緑は豊かな自然、白は平和を表し、中央にあるのは盾と槍で、独立戦争でケニア軍が盾と槍のみで独立を勝ちとったことを意味しています。



### マサイ族について

多様な野生動物の生息地サバンナが広がるケニア南部からタンザニア北部に暮らす先住民族。ヤギや牛、羊などの家畜を財産として生きる牧畜民です。ケニアには約 85 万人、タンザニアには約 75 万人のマサイ族がいるといわれています。もともとは遊牧民でしたが、近年は遊牧だけの生活は厳しくなり、定住して観光ガイドや畑を耕しながら家畜と暮らすマサイ族が増えています。また、都会で暮らす若者もみられます。

## - 言語

学校で英語を学ぶようになり、英語を話す子どもや若者が増えていますが、独自の言語「マー語」が彼らの母語です。マサイとは「マー語を話す人」という意味です。

## - 伝統衣装



マサイ族にとって、赤色は「血」を表す神聖な色で、シンボルカラーです。シュカと呼ばれるマサイ布の基本の色にもなっていて、男性でも女性でも赤い布をまとっているマサイ族が多く見受けられます。また、女性はビーズや粘土、骨、皮、木材などを使った手作りの色華やかな装飾品を身につけています。



東京グレートサンタランを通じて、貧困や病気のこどもたちを応援してくださるみなさま、本当にありがとうございます！当日、みなさまにお会いできるのを楽しみにしています☺

認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

[www.ftcj.com](http://www.ftcj.com)